

## 青谷町版総合戦略進捗状況

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
1	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	各地区まちづくりリーダーの発掘	地域リーダーの発掘と育成	みんなで楽しく取り組むまちづくり	地区公民館・まちづくり協議会	少子高齢化が進み、地域の行事の参加が少なく、まちづくりがなかなか進まない。	地区公民館、まちづくり協議会が実施している事業を通じて、まちづくりとリーダーの発掘に取り組む。 とっとり県民活動活性化センターと連携し、まちづくりに携わる人・団体への支援を行う。	30年度にIloveあおや37メンバーズが「イラストレーションによるまちづくり」フォーラムを開催し、地域のイラストレーターと連携したまちづくりを展開するところである。 2月にとっとり県民活動活性化センターと地域団体の座談会を予定。 その他、各地区公民館・まちづくり協議会と連携し人材発掘を進めていく。
2	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区公民館の役割の再構築	環境整備事業数:3事業	地区公民館・まちづくり協議会	各地区公民館・まちづくり協議会で、年間を通じ、各団体等との合同により環境整備活動(草刈等)を実施している。	各地区公民館・まちづくり協議会で、年間を通じて環境整備活動(草刈等)を実施していく。	【日置地区公民館】 老人クラブ清掃(6月・8月) 【日置地区まちづくり協議会】 環境整備(4月・7月・9月)、日置川クリーン作戦(3月) 【日置谷地区公民館・まち協】 あじさいロード草刈(5・7・10月)、公民館周辺・グラウンド環境整備(6・9月) 【勝部地区公民館】 寿会草刈(6月・10月)、剪定教室&ボランティア募集(10月) 【勝部地域まちづくり協議会】 不動滝周辺の環境整備(6月)、不動谷川草刈(7月・10月) 【中郷地区公民館・まち協】 中郷地区景観づくり活動(6月)、中郷グラウンド整備(9月)、中郷庭園環境整備(3月) 【青谷地区公民館】 日置川土堤草刈(6月・11月)、日置川土堤キカラシの種まき(11月) 【青谷地区まちづくり協議会】 題目塔周辺草取り(7月) ◎青谷町内一斉ボランティア活動、勝部川・日置川美化運動は、初年度はH30年3月18日に実施した。平成30年度はH31年3月17日実施予定。
3	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区座談会の開催	年2回開催(情報共有の機会増)	地区公民館・まちづくり協議会	平成26年度から2年間は、開催要望のある地区のみ開催してきたが、市民への情報提供の増加が必要である。	地区座談会の開催のほか、各地区区長会長やまちづくり協議会、各種団体等を対象とし、鳥取市が実施している「出前講座」等を積極的にPRし、地域住民への情報提供の増加を図る。	平成29年度は、日置谷地区を除く4地区で地区座談会を開催しており、市民への情報提供の機会を増やしている。 平成30年度は、中郷地区を除く4地区で座談会開催。日置41人(9/4)、日置谷36人(8/20)、勝部16人(10/15)、青谷22人(8/9)。 各地区で「地区を語る会」も開催
4	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	スーパーボランティアの促進(アダプト制度)	各地区1団体	地区公民館・まちづくり協議会	市、県が管理する道路、河川、公園等の環境美化については、すべてに維持管理が行き届いていないところである。 地域住民が地域の実情に応じて環境保全や美化活動などを行い、地域にふさわしい環境づくりを進めていく必要がある。	鳥取市「道路愛護活動にかかるアダプト事業」と鳥取県実施の「鳥取版河川・道路ボランティア促進事業」を活用し、道路、河川の保全や美化に、市民が積極的に参加していただくように市報等を利用し制度の周知を図る。	<参画型ボランティア> 小畑を愛する会(H24)、山根部落(H23)、早牛を美しくする会(H24)、日置川を美しくする会(H17)、日置谷“幸せの里”づくり協議会(H21)、青谷の川をきれいにする駅前区の会(H16)、本町区(H21) <協働型ボランティア> 河原区の河川や環境を守る会(H23)、大坪元気組(H22)、奥崎のちょこっと15、栄町自治会 <スーパーボランティア> 勝部地域まちづくり協議会(H25)
5	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	地域の宝は地域が育てる	青中地域創造学校	目指す子どもの姿	創造学校・地域	青谷中学校区地域創造学校運営協議会がフォーラムや講演会などを実施。	引き続き青谷中学校区地域創造学校運営協議会主体となって「ふるさとを思い 志をもつ子」を育てていく。青少年育成青谷町地区協議会と連携し、小中学生に青谷の自然の中で体験活動する機会や地域活動に参加する機会を提供し、それが高校生や大人になっても継続するよう図る。	①地域創造学校 活動を継続 ②青少年育成青谷町地区協議会 青谷地域子ども交流会、清掃ボランティア活動、マナーアップさわやか運動

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
6	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	高齢者、団塊の世代の協力	青谷学の開催	老人クラブ	地域の祭事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。また、子どもたちや若者の減少により、行事が継承できないことにもつながっている。	子ども行事であっても、保護者だけでなく、地域の方が協力していく行事として、文化を継承していく。地域の老人クラブ等の高齢者の集まりの中で、昔語りを取り入れ、祭事や伝統文化の大切さを認識し、地域住民への啓発活動につなげる。	各地区公民館では、節分の豆まき、ちまきづくり、勝部岩力おどり、日置はねそ踊りの練習会等、子どもたちに参加を呼びかけて実施している。この事業は、地域の老人クラブや保存会等の協力で実施している。
7	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	子ども世代の地域活動参加	ルール・マナー・伝統等の伝承	地区公民館・集落	地域の催事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館などが中心となって情報交換会を開く。また、高齢者等から伝統行事についての解説や、自分の思い出話を子どもたちに話してもらう。	ウォーキングや探訪で地域の風物を観察し、地元の方の解説を聞く機会を設けている地区もある。青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。
8	I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1. 地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	集落単独実施から複数集落実施への移行	合同実施による継承・意識啓発	地区公民館・集落	子ども等、祭事等の運営主体が少人数化している。運営主体の人数を確保するため、地域住民全体で実施しようと取り組む集落もある。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館が中心となって情報交換会を開く。伝統行事等を伝承している集落から、周辺の集落に見学や参加を呼び掛ける。	各集落では、とんどさん・いのこさん・村祭り・盆踊り等が継続して行われている。青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。
9	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	青谷賑わい広場整備	駐車場整備(ウェルネス前)	平成26年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、青谷駅に近い公共空地(旧岸本三光堂跡地)に商業施設の集積を図り、にぎわい・活気のある空間として整備する。商業集積地の駐車場整備により利用者の利便性を向上し、人が気軽に立ち寄ることができる賑わい空間の創出とイベント時に広場として活用を促す。  青谷賑わいの場整備(地域生活基盤施設) 駐車場整備等 A=2,200㎡	平成26年度 実施設計・駐車場工事 事業費 20,000千円 実施済
10	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	青谷中央広場(仮称)整備	広場整備等(解体・整備)	広場整備等	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館を取り壊して広場の整備を行い、また福井田川親水護岸整備と併せて青谷地区の憩いの場として、誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。  青谷中央広場(仮称)整備(高質空間形成施設) 広場整備等 A=3,700㎡	平成26年度 広場設計 事業費 5,000千円 平成27年度 建物解体設計 事業費 3,000千円 平成28年度 建物解体工事 事業費 41,000千円 平成29年度 建物解体工事 事業費 38,000千円 平成30年度 広場整備 事業費 35,100千円(当初) 平成30年度 完成(張芝・植栽等の整備、東屋・駐車場の設置)
11	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	福井田川親水護岸整備	親水護岸整備	親水護岸整備	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館跡地の広場整備に併せて福井田川親水護岸整備を行い、青谷地区の憩いの場として誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。  福井田川親水護岸整備(高質空間形成施設) L= 100m	平成27年度 実施設計 3,000千円 平成28年度 第1期工事 6,000千円 平成30年度 第2期工事 10,000千円(植栽・舗装など) 予定 平成30年度 完了(植栽、舗装など)

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
12	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	駅前広場整備	駅前広場整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化策として、青谷地域の中心地であるJR青谷駅前広場を歩行者、自動車の寄り付きやすい空間として整備を行う。	平成28年度 実施設計 平成29年度 工事施工 (JR青谷駅前広場整備事業(地域生活基盤施設) A=1,400m <sup>2</sup> 事業費 27,000千円) H30.5.22~9.10 JR青谷駅前広場整備(1工区)6,566,000円(繰り越し) H30.10~ JR青谷駅前広場整備(2工区)15,000,000円(現年) H31.8月 完成予定 歩道・バス待機場所等の整備
13	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	バス待合所・公衆トイレ等(駅前青谷駐在所跡地活用)	バス待合所・公衆トイレ等整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	青谷駅周辺の地域コミュニティの活性化を図るためJR青谷駅前広場にバス待合所や公衆トイレを設置し、人や車が立ち寄ることができる空間の整備を行う。	平成29年度 実施設計 平成30年度 工事施工 (H30.7発注) (JR青谷駅前バス待合所整備事業(高質空間形成施設) 事業費 27,000千円) H31.6月 完成予定 バス待合所、観光案内、トイレ(男・女・多目的)の整備
14	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	照明灯整備	LED照明灯整備(日置川沿)	LED照明灯整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	日置川から勝部川河口にかけて自然風景に青谷特産の和紙を融合させた修景整備を行う。まちの魅力をアピールすると共に地域の憩いの散策コースとしての整備を進める。	事業の中止
15	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	東町排水ポンプ整備	排水ポンプの増強	排水ポンプの増強	都市企画課	青谷町東町の一部では、土地が低い上に地盤が弱く、福井田川からの流水もあることから、大雨の際には住民は浸水の恐れに悩まされている。ポンプを整備してからは、以前よりは解消されてはきたが、まだ十分とは言えず、抜本的な整備とポンプの増設が望まれている。	福井田川からの流水を止め、また他水路からの流水を防ぐための防護壁を造るとともに、新たな排水路の整備と排水ポンプを新設することで、集水効率と排水能力の向上を図る。	H29年4月 地元説明会、5月 計画(案)の説明会し用地買収 H30年8月 工事発注 H30年8月 完成予定 H31.8 完成予定 排水ポンプ増設事業 水路工:L=206.2m 水中ポンプ:1基、制御盤:1基、吐水管:L=24m
16	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	企業誘致	西部地域への企業誘致	山陰道(鳥取西道路)開通後の立地としての魅力アップ	企業立地・支援課	西部地域では、一段と人口減少が進み地域活力の低下などが顕在化しつつあり、地域の活性化を図るためには若者等が働く場の確保が重要な課題となっている。しかし、近年は企業誘致の実績が少ない。鳥取西道路の開通をにらんで、平成27年8月20日「鳥取市西部地域への企業誘致」について、三町の地域振興会議会長名で市長へ意見書を提出している。	平成31年に山陰道鳥取西道路が開通する予定となっており、交通アクセスが飛躍的に向上する機会をとらえ、西部地域に新たな工業団地の整備を検討する。	企業立地・支援課が主となり、西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。
17	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1. 地域生活拠点の整備	企業誘致	鳥取森田跡地活用	継続的な招致	企業立地・支援課	昭和42年に旧青谷町に進出し、約46年間にわたって青谷地域の地域振興や雇用の確保に貢献してきた鳥取森田(株)が平成25年10月に閉鎖され、現在に至っている。	所在地はJR青谷駅に近接し、また青谷駅南工業団地にあり、利便性がよい。ここに企業を誘致し、地域の雇用の確保を図る。	企業から引き合いがない。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
18	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	農林漁業の活性化	後継者育成	新規就業者数:5人	JA・漁協・農業公社	<p>漁業では、平成26年度、鳥取県漁協夏泊支所で定置網漁が操業開始。現在6名が就業されている。※うち、平成30年度に20代の方1名が新規就業された。</p> <p>引き続き若者就業者の確保が必要である。</p> <p>農業でも、高齢化と後継者・担い手不足から耕作放棄地が増加しており、また、認定農業者等も減少傾向であり、今後の農地の荒廃等が心配される。</p>	Iターン、またはUターンの方が農林漁業への関心が高い傾向があるので、農業振興課、林務水産課、地域振興課等と連携を図りながら対象者への支援、対応をしていく。	平成30年度より20代の方1名が夏泊定置網漁の漁業者として新規就業した。 平成28年度から研修中の就農舎(農業公社)の農業現地研修生2名が、平成30年4月と同年7月に就農した。アグリスタート(鳥取県農業担い手育成機構)の研修生1人が平成31年1月に町内で就農した。 地域おこし協力隊員1名が、平成30年4月からしいたけ栽培の後継者として研修中。
19	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連(ようこそまつりの見直し関連)	因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会の活性化後継者育成	ユネスコ世界文化遺産登録産地のイメージアップ	実行委員会	<p>因州和紙は、近年手すき和紙事業者が激減し、産地としての存続と後継者の育成が喫緊の課題となっている。こうした中、鳥取県指定無形文化財「因州青谷こうぞ紙」の保持団体である「因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会」が、平成27年度活動を再開した。</p>	<p>平成28年度から青谷地域にぎわい創出実行委員会青谷因州和紙産地強化事業部会を中心に事業を実施する。</p> <p>1 因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存事業 ① 和紙の原材料となる楮の試験栽培</p> <p>2 因州和紙PRイベント開催&amp;情報発信事業 ① 市内イベントへのブース設置による因州和紙のPR ② 「因州和紙フェスタ&amp;ひおき収穫祭」の開催</p>	○平成28年度実績:「手すき和紙伝統技術研修会」1月23日、3月4日、「因州和紙フォーラム」10月15日、「因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭」11月20日 ○平成29年度事業実績:「手すき和紙伝統技術研修会」9月5日他、「因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭」11月19日 600人、他イベントPRブース設置 4回 ○平成30年度実績:「手すき和紙保存事業」楮の試験栽培 あおや和紙工房、「因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭」11月11日 あおや和紙工房 日置体育館、他イベントPRブース設置
20	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連(ようこそまつりの見直し関連)	和紙の活用・コラボ「和紙と雑貨」「和紙と民宿」	新たな構想の発信・起業支援	市民・団体	「青谷地域」として、因州和紙の新たな活用方法の認識は低い。	生活の中に和紙を活かす取り組みが期待される。例えば、個人の住宅や空き家での和紙製品等の活用を図り、PRに繋げていく。現在、青谷因州和紙産地強化事業として和紙の活用等を含めて取り組んでおり、この中で検討する。	現段階では動きなし。
21	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	ジオ関連ガイド、産業の発掘	ジオガイドの育成	ジオガイド数:10人	団体	青谷町ガイドネットワークが平成28年3月17日に設立され、会員個々で観光客等を中心にガイド活動を行っている。	ジオパーク及びガイド関連の組織との連携、ネットワークの例会を重ねることで会の活動を充実させるとともにガイドの育成を行っていく。また、補助事業等を利用してイベントの実施を計画していく。	ガイドネットワーク会員7名。 ガイドネットワークは情報交換のため、2か月に1回例会を開催。
22	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	歴史的資源の活用	青谷上寺地遺跡の保存活用	交流人口の拡大	団体	<p>青谷上寺地遺跡展示館で、遺物等の展示や関連事業を実施している。</p> <p>鳥取県埋蔵文化財センターは、調査研究だけでなく土曜講座を開くなど啓発活動に努めている。</p> <p>また、鳥取県と鳥取市が協働して設置した史跡青谷上寺地遺跡保存活用協議会は、青谷上寺地遺跡展示館を拠点として啓発活動に努めている。</p> <p>平成31年度以降史跡公園の実施設計および整備工事に着手する予定である。</p>	<p>青谷上寺地遺跡の史跡整備等について、広く地域の声を聞き、基本計画の見直しと基本設計に結び付ける。</p> <p>青谷上寺地遺跡展示館と保存活用協議会等の団体間の連携を密にし、啓発活動に努める。</p> <p>史跡整備に併せ、地域として遺跡の魅力向上に参画し、活性化へつなげるため組織「上寺地遺跡応援団」の養成するため、ものづくり等の講座を開催する。</p>	平成28年度から組織された「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」に総合支所としてオブザーバー参加するとともに、地元青谷から2名の委員に参画してもらい、青谷上寺地遺跡整備の詳細な基本計画策定に取り組んでいる。 青谷上寺地遺跡展示館と青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会は、それぞれ事業を実施し、啓発活動に努めている。 平成30年度から上寺地遺跡ガイド養成講座、ものづくり講座を実施、現在2回開催し、11名が受講中。 31年度からの活動に向けて関係機関と調整を行っているところである。
23	II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	団塊の世代によるまちづくり	元気塾への参加など中高年の経験や知識の活用	組織化数:3団体	市民・団体	鳥取市では、平成23年度から地域リーダーの掘りおこし、人材育成のために、とっとりふるさと元気塾の活動を実施している。	平成30年度とっとりふるさと元気塾で10回の開講予定があり、歴代参加者および地区公民館へ周知していく。 地域別講座として、長和瀬と駅前地区での実施を検討していく。	ふるさと元気塾も7年目となり、開催内容・新たな団体等が頭打ち状態となりつつある。 30年度青谷地域内で2回(8月:民泊、1月:防災)開催し、今後のまちづくりの取組について意見交換を行った。 新たな団体等が参加するよう、働きかけを行っていく。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
24	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場(通称:あおいち)の開催(ようこそまつりの見直し関連)	駅前賑わいの場での開催(6月～11月毎月1回定期開催)	入込客1,000人 特別イベント等の開催による集客	実行委員会	青谷ようこそまつりは、マンネリ化し、集客数が3,000人を下回っており、イベントの見直しが必要である。	定期的なイベントとして「あおいち」を年5回開催し、地域の活性化を図る。 地域の魅力をブラッシュアップし、地域資源を持つグループが主体となってイベント実施できるように支援していく。 青谷高校と連携してイベント運営、ボランティア参加を図る。また、イベント運営・ボランティアを連携し、かちべ伝承館ほか地域資源のPRできる会場での開催を計画。	平成28年度実績 6月12日:青谷ようこそ館前600人、8月11日:夏泊漁港400人、9月11日:夏泊漁港600人、10月9日:青谷ようこそ館前600人、11月27日:ようこそ館前300人 平成29年度実績 6月4日:青谷ようこそ館前1,500人、7月2日:夏泊漁港800人、8月11日:夏泊漁港500人、9月3日:青谷ようこそ館前500人、10月1日:青谷ようこそ館前1,000人 平成30年度実績 6月3日:青谷ようこそ館800人、7月1日:夏泊漁港1000人、8月5日:かちべ伝承館800人、9月2日:総合支所1000人、10月7日:中止、11月24日:ウォーキング200人、12月15日:青谷ようこそ館500人
25	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場(通称:あおいち)の開催(ようこそまつりの見直し関連)	まちなかギャラリー発掘	ギャラリー3ヶ所	実行委員会・団体	青谷ようこそまつりの見直しに伴い、市民のギャラリー展示スペースの整備を検討している。西商工会青谷会館での展示を予定。空き家、空き店舗等の確保が難しい。	「あおいち」開催に合わせ、青谷町文化協議会展示系の出展以外にも広く一般に出展者を募集し、西商工会青谷会館を利用し、「あおいちギャラリー」を開催する。	平成28年度事業実績 あおいちギャラリー 11月23日～27日 西商工会青谷会館 156人 平成29年度事業実績 あおいちギャラリー 9月27日～10月3日 西商工会青谷会館・青谷地区公民館281人 平成30年度事業実績 あおいちギャラリー 8月31日～9月2日 あおや郷土館 368人
26	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	定置網による鮮魚販売	定置網による鮮魚販売	夏泊漁協	平成26年度より夏泊漁港で操業開始した定置網漁に伴い、荷揚場にて朝市も開始。年々入込客数が増えている。 入込客のほとんどが地元住民であり、今後地区外への周知が必要である。	入込客数については、増加傾向であるため、更に内容を充実させ、PRを継続させていく。	時化等の影響により漁ができない日が続くことがあったが、あおいち以外の通常では平日約50人、土日約100人の入込客があった。5月連休時は200人からの入込客が会った。  朝市は継続中。(4月～11月末 毎週火曜日定休日)  多くのお客様に購入いただけるよう宅配便を用意したが、2～3件程度の利用であった。
27	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	あおいちとの連携	入込客500人	商工会・各種団体・夏泊漁協	平成28年度より「あおいち」が、年6回開催しているが、そのうち年1、2回を夏泊で開催している。	平成26年度より実施している夏泊定置網朝市とのコラボによる相乗効果により集客を図る。また、PRを継続して実施し、入込客数1,000人の目標を達成させる。 山陰道が開通することにより、県外からの入込客の増加が見込まれ、それに合わせたPRが必要。	平成28年度から、青谷ようこそ市場(通称:あおいち)が開催され、年6回のうち2回を夏泊漁港で開催した。 あおいち開催日は来場者も多く大盛況であり、30年度も目標の入込客数が達成できた。
28	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	マリインイベント	サーフィン・スタンドアップパドルボードイベントの開催	年2回	団体	青谷地域活性化推進事業である青谷地域づくり連絡協議会主催の新規事業として、スタンドアップパドルボード体験を実施し、青谷の海で体験できるジオサイト水上スポーツとして定着することをめざす。	年2～3回開催予定。場所は井手ヶ浜海岸、青谷海岸および勝部川のいずれか。1回につき12人程度募集し、インストラクターによる指導のもと、スタンドアップパドルボードを体験する。初心者にもできる水上スポーツとしてPRを図り、定着することをめざす。	平成28年度 8月に井手ヶ浜海岸で実施した(9月は悪天候により中止)。 平成29年度 年3回、7月と8月に単独イベントとして勝部川で実施した。また、9月の「あおや鳴り砂ビーチフェスタ」の中で開催した。 平成30年度 7月22日、8月19日に単独イベントとして実施。9月9日の鳴り砂ビーチフェスタは荒天のため中止。
29	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	クラウドファンディング活用	井手ヶ浜多目的広場活用	企画の整理・調整	民間	この広場は市有地であり、現在はトイレ・水道が設置され、サーファーなどが利用している。	この広場も含め、クラウドファンディングを青谷地域で推進するためのノウハウを習得し、PRを図る。	現段階では動きなし。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
30	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	フットパスの開催	素材を活かした各地区別のウォーキングコース設定	各地区既存コースをミニフットパスとしてPR こばしまウォーキングの充実 石碑・川六作品探索コース	地区公民館・まちづくり協議会・民間団体	主催はこばしまウォーキング実行委員会。主管は鳥取市体育協会青谷町支部、青谷町健康づくり地区推進員会、青谷スポーツクラブ。青谷町健康づくり地区推進員会が作成した「あおやふれあいウォーキングマップ」をもとにコースを設定している。	「こばしまウォーキング」として5地区全てで開催し、地域の素材を活かしたコースを設定する。	平成30年度のこばしまウォーキングは、日置谷地区で11月3日に開催。全地区で開催が達成された。来年度は青谷地区で開催予定。
31	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	西因幡グランドデザインとの連携	道の駅への運営参画	出店参加団体との早期調整	民間	道の駅の名称が「西いなば気楽里(きらり)」と決定し、平成31年6月オープン予定。	道の駅の指定管理者と協力し、青谷地域の製品の調整等、必要に応じて対応していく。	鳥取西いなばまちづくり会社が道の駅の指定管理者となり、出品者の募集等を行っている。
32	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高等学校のあり方を考える協議会(青谷高等学校活性化を支援する会)	青谷高校の入学人数の増加・存続	協議会・地域	H26年12月に「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を設立し、青谷高等学校の存続に向け取り組んできた。平成28年3月に「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針で『特色ある取り組みを推進する学校の存続に最大限努力する』に基づき、平成29年9月27日に「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を解散し、新たに「青谷高等学校活性化を支援する会」を設立し、地域と青谷高等学校が連携した取組を行う。	青谷高等学校活性化を支援する会は、「地域連携部会」と「卓球部会」の専門部会を設置。地域連携部会:青谷学等に地域資源や人材を活用した教育活動の支援を行う 卓球部会:青谷高校の伝統である卓球を活用した取り組みや「卓球のまち 青谷復活のための活動を行う。 青谷高校生の地域イベントへの参画を図ったり、情報発信として青谷高校の取り組み等を『青谷町総合支所だより』で紹介する。	平成29年度 青谷高等学校活性化を支援する会を1回、「地域連携部会」2回、「卓球部会」2回開催。 青谷高校卓球部員による卓球教室、青谷学への地域資源や人材の紹介を行った。またの平成30年3月18日開催の、吹奏楽部演奏会開催について協力した。 平成30年度 青谷高等学校活性化を支援する会(8/5青谷高等学校訪問)、「地域連携部会」(8/30)、「卓球部会」(4/26)開催。 また、出前県議会(11/22)、青谷学発表会の開催(12/14)について協力した。
33	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高校生卓球部員による卓球教室	参加者:200人	青谷高校・協議会	「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、青谷高校生卓球部員が主体となり、インターハイ出場経験選手や社会人リーグで活躍中の選手である青谷高等学校卓球部OGやOBの豊富な人材を指導者として平成27年度から「青谷高校生による卓球教室」を実施。	青谷高校の魅力アップのため、卓球部員による卓球教室の開催。 指導者:青谷高校卓球部員、青谷高校卓球部OB・OG 対象者:小中学生、一般、 内容等:レベルに合わせたきめ細かな卓球指導とし、個別指導を行う他、参加者からの要望に応えた形で指導を行う。	平成27年度 参加者 90人 指導者30人 平成28年度 参加者 70人 指導者40人 平成29年度 参加者 100人 指導者40人 平成30年度 7月29日(日)開催予定であったが、台風12号接近により中止。
34	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷オープン卓球	参加者:500人	県卓球連盟	「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、近隣の中学校卓球部参加により男女別の団体戦を行う。	中国5県及び鳥取市姉妹都市姫路市、交流都市池田市の中体連卓球専門委員長へ各県や市の代表として青谷オープン卓球へ出場チームを決定。男女とも12チームで団体戦を行う。青谷高校卓球部や青谷高校卓球部OB・OGを大会競技役員とし、地域をあげて大会に係わる。 また、大会開催中に有名選手による卓球講習会を実施するなど、オープン卓球大会の充実を図る。 「卓球のまち青谷」の復活と審判等青谷高校卓球部の活躍の場を設定する。	平成27年度 男子12チーム、女子9チーム参加。卓球講習会講師:元世界チャンピオン 小野誠治さん、元オリンピック代表選手 仲村錦次郎さん 平成28年度 男子12チーム、女子11チーム参加。卓球講習会講師:元オリンピック代表選手 仲村錦次郎さん、TSP所属選手:尾留川竜希さん 参加したチームの選手や監督からは好評を得ているので、大会知名度のアップを図る。 平成29年度 男子11チーム、女子9チーム参加。講習会講師:元オリンピック代表選手仲村錦治郎さん、庄司達也さん 平成30年度 男子11チーム、女子9チーム参加。講習会講師:元オリンピック代表選手仲村錦治郎さん、野坂大輔さん
35	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	国際交流の推進	交流事業の参加者:300人	青谷高校	交流都市として友好を深めている中国太倉市から明德高等学校の生徒等、青谷高校と長年交流のある韓国から居昌中央高等学校の生徒等を招致し、地域資源を活かし、地域とのふれあい・体験の場を提供して、地域住民とも関わりながら友好交流を深めている。	韓国から半日間高校生を受け入れ、周辺地域の視察を行いながら、若者同士の交流を図る。	平成28年度は、韓国5人と中国5人の生徒等を招致。青谷高校からの要望により、シンポジウムから授業交流を中心とした事業を実施。 平成29年度は、韓国居昌中央高等学校との相互訪問等による学校間交流を実施した。 平成30年度は、引き続き韓国居昌中央高等学校との学校間交流を行った。(県事業予算による実施)

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
36	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	ボランティア活動	参加生徒数: 100人	青谷高校・地域	平成27年度は、ボランティアとして、菖蒲綱引きや卓球教室への参加、青谷駅清掃、全国鳴り砂サミットや青谷ようこそまつりなどたくさんの地域行事等に青谷高校生が参加し、地域との関わりを深めている。	青谷地域をはじめ、鳥取市西部地域の各行事等への青谷高校生の積極的な参加により、地域とのつながりを深めていく。地域イベントなどへボランティアとして参加していることを広報的に情報発信していくことにより、青谷高校生が社会の一員として参加していることを地域住民などへ広く知らせる。	平成28年度は、青谷駅・浜村駅の清掃や卓球教室、菖蒲綱引き、あおいちなどたくさんの地域行事等にボランティアとして積極的に参加し、地域とのつながりを深めた。平成29年度も同様に、各地域の行事等に積極的に参加している。引き続き30年度も、菖蒲綱引きなど地域の行事の積極的な参加している。
37	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷学の開催・協力	授業開催: 2回/週	青谷高校・地域	青谷高校と連絡を密にし、地域や支所が協力して取り組んでいる。	「青谷学」の充実に向け、青谷町総合支所としても青谷地域住民等との関わり強化に協力していきたい。平成30年度は、青谷地域にぎわい創出事業「あおいち」に青谷高校生2年生が参加協力	平成29年度より「青谷学」を2年生の授業の必須科目とし、地域への理解と関心を深めるカリキュラムのアドバイスを地域住民が行う。平成30年度青谷学の「青谷木綿の復活!」「魚食の促進」等の8つの課題探究の取り組みに協力した。また12月14日の課題探究成果発表会場として青谷町総合支所で開催の協力を行った。
38	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	文科系部活動のPR	美術部・書道部等の作品の通路展示	青谷高校	演劇部・吹奏楽部を含む文科系部活動は、体育系部活動と比較して、発表する機会が少ないこともあり、活動していることも対外的に知られてなく、部員も少ない状況である。平成29年度は、平成29年度 青谷町総合支所多目的ホールで青谷高等学校吹奏学部演奏会を開催	高校生の部活動への取り組み等を相互理解することにより、地域の中における青谷高校の存在意義も充実する。	青谷高校生の作品展は、あおや郷土館で開催している。今後は、他の場所での開催も検討していく。
39	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	池田市との交流促進	池田市イベントへの参加	参加イベント: 3回(青谷物産の販売)	農業公社・民間団体	農業公社が中心に池田市民カーニバル、池田市農業祭等に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月 池田市民カーニバルに参加し、青谷特産物の販売、PRを行う。(農業公社職員、青谷支所職員) 10月 池田市商業祭に参加し、青谷農産物販売、PRを行う。(農業公社職員、青谷支所職員) 11月 池田市農業祭に参加し、青谷農産物販売、PRを行う。(農業公社職員、農業者) 池田市ふるさと納税に青谷町特産物のPRを行う。(農業公社職員、農業者) 池田市を通じた販路の拡大を行う。(農業公社)	平成30年度は、8月池田市民カーニバルに参加し、青谷特産物の販売、PRを行った。(農業公社職員、青谷支所職員) 11月には池田市農業祭に参加し、青谷農産物販売、PRを行った。(農業公社職員、農業者) 池田市ふるさと納税謝礼品に青谷町特産物を利用している。(H30年度1月現在実績 1,958,000円) 池田市に紹介いただいたダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引を行っている。
40	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	(納涼祭への参加)	青谷物産の販売	農業公社・民間団体	JA青谷支店が中心となってダイキン工業納涼祭(大阪)に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月 ダイキン工業納涼祭(大阪)に参加し、特産品の販売、PRを行う。(JA青谷支店職員)	平成30年度は、8月ダイキン工業納涼祭(大阪)にJA青谷支店が出店し、梨を中心に特産物の販売、PRを行った。
41	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	関連企業への販路開拓	青谷物産の販売	農業公社	ダイキンアレス朝市にかちべ伝承館、ようこそ館が出店し、農産物等の販売を行っている。また、ダイキン工業納涼祭にJA青谷支店が参加し、農産物の販売を行っている。	ダイキンアレス朝市に出店し、青谷特産物の販売、PRを行う。(かちべ伝承館、農業公社、農業者) ダイキンアレスを通じて販路開拓を行う。(農業公社)	ダイキンアレス朝市にゴールデンウィーク、夏期間、かちべ伝承館、ようこそ館等が出店し、宿泊、利用者に農産物等の販売、PRを行った。 年末年始の期間に開催される朝市に販売、PRを行う。
42	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	青谷町出身者の知的財産の活用	県内外で活躍する青谷町出身者、ゆかりのある方の発掘、作品等を紹介する機会を継続的に実施する	人物や作品等を紹介する機会を通して伝承に繋げ、触れることによる教育普及及び紹介冊子の作成	あおや郷土館	あおや郷土館では、青谷町にかかわる芸術作品の情報を収集し、定期的に展覧会等を実施している。青谷中学校では、青谷町出身の著名人等を招聘し、講演してもらっている。	県内外で活躍している青谷町出身者の把握を行うとともに、中学校の同窓会等を利用して、情報の収集に努める。	あおや郷土館では、青谷町にゆかりのある著名人の芸術作品を展示するほか、鳥取市西部地域で活躍する作家等の展覧会、青谷町文化協議会の作品展示等を随時実施している。このような事業の中で、多方面で活躍している青谷ゆかりの人々の情報を収集している。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
43	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	空家の活用及び移住定住の促進	移住定住空家運營業務委託(空家調査等)空家・遊休施設の活用(ギャラリー、ゲストハウス等)	空家・遊休施設(店舗等)の活用10カ所空家の詳細を動画でネット配信	NPO	平成27年10月から、地元の「N.P.O BFOUげ」が鳥取市空き家運營業務を実施し、移住定住に向けて取り組んでいる。お試し定住体験施設の運営も前向きに検討中である。	現在実施中の委託業務がスムーズに進むよう連絡調整を行う。 空き家の詳細ネット配信について、平成30年度は動画配信を実施できるよう働きかけ・協力を行う。 移住定住成果についてネット上でPRしていく。 移住定住だけではなく、ギャラリーやゲストハウス等の活用を推進する。	定住実績 平成29年度 1件、平成30年度 0件 空き家の登録は順調(H31. 1月現在7軒)であるが、建物の状態が良好な物件は少なく、引き続き登録を推進していく。
44	Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	他地域の素材との連携	例:子守神社の磨き上げ、白兔神社や八上姫とのストーリー作りなど	新たな観光ルートの可能性の検討	旅行会社・行政	子守神社は一部には知られているものの、その神秘的な魅力が活かされていない。石碑や石工川六の石造物作品など、PRすべき地域資源は多い。	「白兔神社＝縁結び 子守神社＝子育て」の組み合わせでの魅力発信を検討する。大国主命、八上姫に縁のある長尾鼻の伝説や二人をまつる潮津神社などをつなぐ。川六作品の探索コースを設定する。これらの資源を商品として売り出す可能性を調査研究する。	平成29年度から企画ツアーGバスが西部地域を運行。 平成30年度は3月に2回、平成31年度は9回運行予定。
45	Ⅲ 誰もが生き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	自主防災組織の体制整備と連携強化	体制整備と連携	全集落で体制整備	地域	平成29年度に望町に自主防災会が結成され、町内すべての集落に自主防災会ができた。 近年の台風、地震等による災害の発生を受け、住民の防災意識が高まりつつあり、各自治会の自主防災会で避難訓練や防災講習の実施に取り組むところが増えてきている。	各自主防災会は、鳥取市自主防災会連合会に属し、連合会組織のもとで活動している。その活動を行う上で、連合会から各種助成があり、これらを活用しながら活動を進める。特に、消火訓練、放水訓練、避難訓練、防災講習会、救急講習会などを年間計画に取り入れて活動を行う。	鳥取市自主防災会連合会の助成の状況 青谷町助成実績: 平成27年度26防災会(42防災会中)、2地区(5地区中) 平成28年度26防災会(42防災会中)、3地区(5地区中) 平成29年度34防災会(43防災会中)、3地区(5地区中) ※望町防災会立上げ、加入
46	Ⅲ 誰もが生き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	避難行動要支援者支援制度への登録啓発	全地区での取り組み強化・制度の啓発と地域との連携	登録集落:全集落	地域	・青谷地域では平成21年度から取り組み始め、全ての地区で取り組んでいる。 ・平成27年4月1日時点の登録集落31、登録者数は270人。	・制度の内容理解促進。 ・登録促進啓発。 ・青谷町自治連合会研修会での制度説明を実施。 ・民生委員へ制度説明と担当地区啓発を依頼。	・今年度も4月に各区長へ登録の取り組みを依頼するとともに、パンフレットを配布して、制度の内容理解の促進をした。 ・地区座談会、いきいき・サロン(奥崎・田原谷・亀尻)にて、制度の説明と登録の推進を図った。 ・平成31年1月1日時点の登録者数は394人である。
47	Ⅲ 誰もが生き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置の啓発	事業説明と周知	全集落で体制整備	地域	平成27年4月1日時点の設置件数は38件。	①青谷町自治連合会総会・研修会、地区座談会において設置啓発を進めていく。 ②民生児童委員会で説明し、それぞれの地域へ声かけを進めていただく。 ③各地区、集落等で要請があれば説明会を開催し、本事業の推進を図る。	①各種研修会等を通じて、各地区へ取り組みを依頼した。 ②民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼している。 ③平成31年1月1日時点の設置件数は32件。(新規登録:平成27年度7件、平成28年度5件、平成29年度0件、平成30年度2件 合計14件)
48	Ⅲ 誰もが生き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2. 生活に必要な利便性の確保	地域バスの運行対策	地域独自バス運行	オンデマンド方式の可能性の検討	民間・NPO	青谷地域のバス利用者は主に小学生であり、地域住民の利用はほとんどなく、赤字が継続している。今後の運行に向けた整理が必要である。	青谷に適した方法の検討を行う。	現状、動きなし
49	Ⅲ 誰もが生き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2. 生活に必要な利便性の確保	買い物支援対策	実態調査	可能性の検討	民間・NPO	現在は、JA鳥取いなばグループのトスク株が鳥取市内で移動販売を実施している。青谷地域では、日置・勝部地区を中心に運行されている。	この移動販売以外にも買い物支援が必要なのか、今後検討していく。	平成29年度から買い物福祉サービス見守り活動の導入:青谷23世帯申込済

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
50	Ⅲ 誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3. 結婚・出産・子育て支援	子育て世代グループの活動支援	すくすく保育園で開設している子育て支援センター参加の保護者を中心としたグループの立ち上げ・高齢者との世代間交流	現在使用していない第2園舎の活用を含めた、可能性の検討	市民・団体・行政	第2園舎は子育て支援センターがあり、以前から使用している。 少子高齢化により園児数が減少し、第2園舎の使用していない部屋が多い。	保育園、市民福祉課、地域振興課、教育委員会分室、各地区公民館等、市の関係機関において、サークルの運営を支援するとともに、他地区についてもサークルの立上げを視野に入れながら保護者等に情報提供を行う。	平成29年3月に青谷地区公民館の自主的サークル「こっちゃんクラブ」が立ち上がった。会員は、青谷町内外の住民で、0歳～1歳までの子と母約20名で、月1回第1水曜日に活動。情報交換や、青谷地区公民館の事業に参加している。第2園舎の活用については、動きなし。
51	Ⅲ 誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3. 結婚・出産・子育て支援	独身の会の立ち上げ	青谷地域で会を立ち上げ、活動を通じた交流機会の創出	可能性の検討	市民・団体	独身者の出会いが少ない。	青谷地域の独身者に呼びかけ、地域独自の交流会を検討する。	現状、動きなし。
52	Ⅲ 誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	4. 高齢者・障がい者等を地域で見守り支え合うネットワークづくり	認知症高齢者等を支える地域づくり	他団体連携・各健康教育等の実践及び啓発	町全体に啓発・支援の実施	地域・行政	青谷町では、高齢化率の急速な増大(H29年7月現在39.5%[全市27.5%])により、ますます認知症高齢者数の増加が見込まれている。介護(認知症)予防として重要な、生活習慣病の改善や健康的なライフスタイルの構築、精神的健康問題の改善の認識が、勤労者(家族介護者)世代にも拡充が必要である。 このような現状の中で、青谷地域振興会議より、青谷町における認知症施策拡充における提案があり、それらを踏まえて「認知症を支える地域づくりを青谷町全域で」を鳥取西地域包括支援センターとの連携により、具体的実施計画を作成し推進していくこととする。	1.認知症への理解を深めるための啓発・実践 (1)地区座談会において啓発チラシ配布 (2)地区健康教育による認知症予防・啓発の推進 (3)市社会福祉協議会と協力し、青谷町における認知症予防・ケア支援事業等の案内チラシを作成・毎年度更新予定 (4)青谷町健康づくり地区推進委員会、民間支援団体や施設と連携し、支援事業を実施 2.認知症の早期発見・早期診断に繋げるための支援 青谷町健康づくり地区推進委員会と協力して、もの忘れ相談プログラム(タッチパネル)等を活用した相談会の開催 3.鳥取西地域包括支援センターとの連携	1.(1)認知症サポーター養成講座と認知症カフェの啓発チラシを配布し周知を図った。 (2)高齢者教室での講演、ふれあい・いきいきサロンで健康教育を実施。また青谷地域振興会議において、鳥取西地域包括支援センターの協力で「認知症サポーター養成講座」を実施した。 (3)市社協と協力し、青谷町における認知症カフェや介護予防出前講座の問い合わせ窓口を明記したチラシを作成。4団体(地区公民館、青谷町健康づくり地区推進委員会、ふれあい・いきいきサロン、老人クラブ)へ配布。 (4)特別養護老人ホームなりすが主催、青谷町健康づくり地区推進会後援にて、町内5つの地区公民館で介護予防イベントを実施。 2.高齢者教室開催に合わせて実施済。 3.鳥取西地域包括支援センターとも引き続き連携を強化する。

青谷地域振興会議における委員提案

	開催日	概要	経過等
平成28年度	第2回 平成28年5月27日	グループホームの設立について	平成30年12月より、障がいのある方やひきこもりの方やそのご家族を含め地域住民の居場所づくりとして、住民のボランティア組織「ほっとカフェの会」が設立され、「ほっとカフェ」をオープン。
	第4回 平成28年8月19日	福祉サービスから「地域づくり」を考える	福祉施設間の連携を図るため「青谷町総合福祉センター」「小規模多機能型居宅介護施設ほのぼの」「特別養護老人ホームなりすな」「青谷こども学園」で「青谷地域福祉施設連絡会」を設置。
平成28年度	第5回 平成28年10月17日	因州和紙産地と書道教育について 文房四宝まつりの紹介	H30年度にぎわい創出事業で、因州和紙と書道を結びつけた「自分で漉いた紙で書初めをしよう」(31/1/6)を実施。 平成30年10月27日、28日第20回文房四宝まつり(鳥取市文化センター)が開催。
	第6回 平成28年11月17日	青谷図書室に行ってみよう	平成30年1月より図書案内をブックボードに掲示
平成29年度	第7回 平成29年1月19日	担い手農家が耕作しやすい環境づくりについて 多面的機能支払交付金のあらましについて	山根地区：県営ほ場整備事業において平成30年度に実施設計、31年度以降に工事着手予定。中山間直接支払事業に取り組み開始及び農事組合法人が設立。 五本松地区：31年度より多面的事業に取り組み予定。
	第2回 平成29年5月24日	認知症を支える地域づくりを青谷町全域で	平成29年11月8日： 鳥取西包括支援センター・市民福祉課より「認知症を支える地域づくりを青谷町全域で」(案)提案 平成30年10月10日： 地域振興会議委員対象認知症サポーター研修実施
平成29年度	第4回 平成29年8月31日	委員提案管理票進捗状況 (取りまとめ表提示)	

平成28年度 青谷地域振興会議  
委員提案管理表

開催日等	平成28年度 第2回青谷地域振興会議 平成28年5月27日
提案委員	瀧 洋子
提案内容	グループホーム（共同生活援助事業）の設立について
具体的な内容	<p>青谷地域でも障がいのある人のグループホームの設置要望が多くなっている。他市の施設に体験入居している方もある。設置に向けて空き家を改修してはどうかと考えているが、土地の問題があり進んでいない。</p> <p>今後は地域の理解が必要となる。設置できれば、青谷地域は福祉の充実したまちになっていくと思っている。身近に施設があると家族も安心して暮らせる。地域で応援していくことが必要だと考えている。</p>
意見	<p>・働く場の確保は進んでいくと思うが、親は将来のことが心配となっている。近くに施設が必要である。</p>
<p><b>以後の経過（随時）</b></p> <p>11/17会議で経過報告：設置予定の場所の地盤が弱いため、申請が通るかどうかが不透明である。ストップ状態である。賃貸物件が対象であるので、駅前あたりに良い場所がないだろうか。</p> <p><b>29/8/31会議で経過報告（市民福祉課）</b>：障がいのある方が日常生活上の相談援助等を受けながら、地域で安心して共同生活ができるグループホームは重要と認識しています。設立についての窓口は県ですが、随時、設立に関する情報提供・相談等に乗っていきたいと考えています。</p> <p><b>31/2/15会議で経過報告（市民福祉課）</b>：H30年12月より、西地域住民のボランティア組織で「ほっとカフェの会」が設立され、障がいのある方やひきこもりの方やそのご家族、そして地域住民の皆さまの居場所として「ほっとカフェ」をオープンしました。当事者の相談対応や情報提供の実施、地域交流の場としても成果を挙げています。その中でも、当事者同士でグループホームの重要性や対応について話し合う姿が見られています。居場所を通して、青谷地域にも、障がい者理解に向けた支援の広がりについて尚一層啓発し、ゆくゆくはグループホーム設立支援等、安心して住みやすい地域づくりを目指したいと考えています。</p>	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成28年度 第4回青谷地域振興会議 平成28年8月19日
提案委員	上田 洋子
提案内容	福祉サービスから「地域づくり」を考える
具体的な内容	<p>青谷地区保健センター付近一帯を福祉ゾーンとし、様々な福祉サービスが連携し、各専門職や地域住民との顔の見える関係を築いていければと思います。青谷地区保健センターの利活用、人材確保等の課題があります。</p> <p>また、青谷地域外の勤務者にとって青谷は働くだけの場ではなく、青谷地域の職域間の交流の場となることも必要です。20代、30代の方も多く勤務しており、職域間のスポーツ大会やしゃんしゃん祭り等へ参加ができればと思っています。また、職場体験やボランティアを通し、小学校・中学校・高校を通じた人材育成の充実が必要です。</p>
意見	<p>意見：各専門職同志の連携とは</p> <p>回答：青谷地域の福祉施設が連携し、出張講座や研修会を開催するなど、進めていきたいと考えている。</p> <p>意見：「青谷町版総合戦略は、福祉関係をもっと厚くしてもよい」「保健センターには利用制限があるようだが、トレーニングスペースにするなどのことを考えてほしい」</p>
<p><b>以後の経過（随時）</b></p> <p>（H28）11/17会議で経過報告：10月28日に医療・福祉等の連携についての話し合いが初めて開催され、西部地域の高齢者介護、医者等関係者約20名が参加した。今後はいろいろな提案を働きかけていきたい。また、今回の地震で施設のエレベーターが止まった。改めて、地域の協力が必要、顔の見える体制づくりが必要だと感じた。</p>	
<p><b>29/8/31会議での経過報告（市民福祉課）</b>：医療・福祉等関係者の連携については、今年4月にも研修会が開催されており、今後も引き続き西包括支援センターとも連携しながら進めていきます。また、青谷町版総合戦略へは「認知症高齢者等を支える地域づくり」の項目を追加し、実施主体に関係機関との連携を記載します。</p>	
<p><b>31/2/15会議での経過報告（市民福祉課）</b>：福祉等関係者の連携については、鳥取西包括支援センターが中心となり、「青谷町総合福祉センター」「小規模多機能型居宅介護施設ほのぼの」「特別養護老人ホームなりすな」「青谷こども学園」で「青谷地域福祉施設連絡会」を立ち上げ、福祉施設間の連携の在り方を検討・検証しています。なお、H30.9.1合同で避難訓練を実施しました。</p>	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成28年度 第5回青谷地域振興会議 平成28年10月17日
提案委員	長谷川英二
提案内容	因州和紙の産地としての書道教育の推進ほか
具体的な内容	先日、広島県熊野町で開催された和紙のイベント「第19回文房四宝まつり」に参加した。書道に必要なもの（筆・墨・硯・紙）の産地が集まる祭りである。2年に1回開催され、2年後は鳥取市が会場となる。熊野町では小学校1年生（通常は3年生）から書道の授業がある。筆の産地ならではの取り組みである。今年になってから、ようこそ書道コンクールや因州和紙書初め大会が中止され、組合員の力不足を感じているところであるが、このイベントに参加し、「書道っていいな」と改めて思った。鳥取も紙の産地として、書道教育を特別な策をもって動き出してほしいと思っている。
意見	意見：青谷高校と因州和紙を結び付け、青谷高校に入学すると字が上手くなる、書道を習うことができる、など地域の特性を活かしてはどうか。 意見：鳥取市も特化した取り組みが必要である。教育する先生が少ないかもしれないが、やり方だと思う。 意見：学校で授業に取り入れることを検討してほしい。 意見：熊野町のビデオを見て思ったが、学校だけではなく地域での取り組みも大事である。
以後の経過（随時）	
<p><b>29/8/31会議での経過報告（地域振興課）：</b> 青谷小学校でも3年生から、授業で習字がありますが、中学校になると授業でも部活動でも書道に接する機会はなくなるようです。小学校及び中学校での授業化は教育指導要綱上、難しいと考えられます。</p> <p>青谷高校においては、2、3年次に青谷学として特色ある取り組みを行われていて、今後「青谷高等学校活性化を支援する会」を立ち上げますので、その中で議論ができるかなと考えています。</p> <p>また、長谷川さんが会長をされている、にぎわい創出事業実行委員会の和紙部会での検討も可能と考えます。</p>	
<p><b>31/2/15会議での経過報告（地域振興課）：</b> にぎわい創出事業実行委員会の和紙部会で検討し、平成30年度 因州和紙と書道を結びつけた「自分で漉いた紙で書初めをしよう」（31/1/6）を実施し、今後も継続して実施される予定です。また、平成30年10月27日、28日第20回文房四宝まつり（鳥取市文化センター）が開催されました。</p>	

平成28年度 青谷地域振興会議  
委員提案管理表

開催日等	平成28年度 第6回青谷地域振興会議 平成28年11月17日
提案委員	松岡 礼子
提案内容	図書館
具体的な内容	<p>青谷図書室について、たくさんの人に利用してほしい、子どもも大人も本に親しむ環境を作ろう、との思いで提案した。</p> <p>小学校の頃、毎日のように（旧）青谷中央公民館の図書室に行っていた。その後、図書室は青谷町総合支所内に設置され、36,000冊もの蔵書があり、音読教室等のイベントも開催しているが、利用者が減少しているようである。入口がわかりにくい等の課題があるが、見やすい看板の設置等による図書室の存在のPR、学習コーナーの増設、保育園小中学校との連携を密にする等、身近な存在にすることが必要である。利用者を増やしていくことが、長い長い人づくり、町づくりに繋がると思う。</p>
意見	<p>意見：みなさんに知ってもらい、たくさん利用してほしいと思う。（月・祝日以外）平日、土日も19時まで開館している。</p> <p>鳥取市の図書館とオンラインでつながっているので、市内の他図書館の本も借りることが出来るようである。</p> <p>意見：蔵書36,000冊と充実しているが、狭い。ゆったりとしたスペースが必要である。借りるだけで、その場で読むスペースがない。</p> <p>回答：元々、青谷町役場当時の町民ホールであったため、様々な制限があります。</p> <p>意見：移動図書館もあり、図書室の利用が減ったのかもしれない。</p>
以後の経過（随時）	
<p><b>29/8/31会議での経過報告（分室）</b>：入口看板につきましては、少し地味で目立たないかもしれませんが、よいご提案をいただければ検討したいと思います。</p>	
<p><b>31/2/15会議での経過報告（分室）</b>：平成30年1月20日より、図書室案内をブラックボードに掲示しました。</p>	

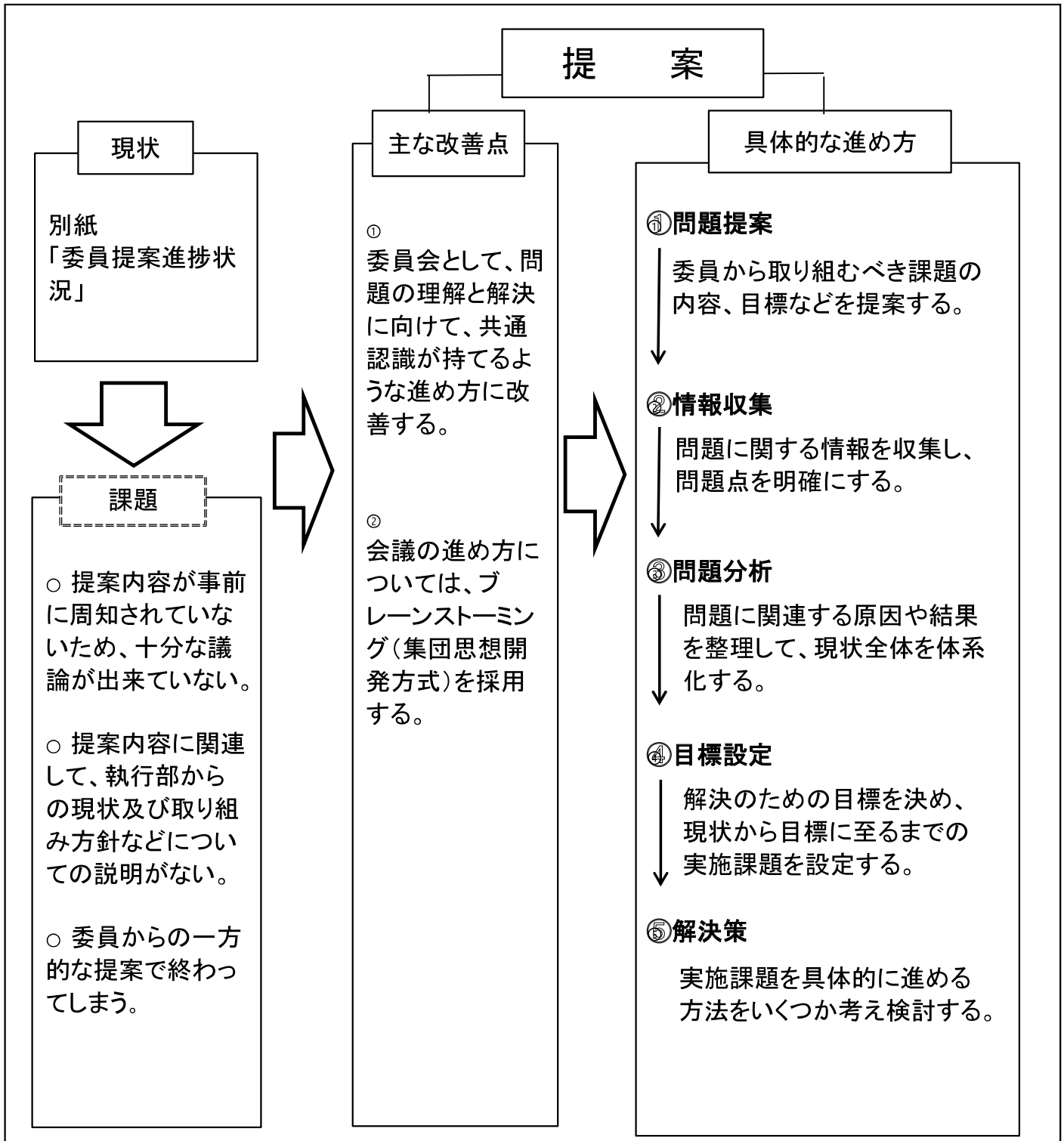
平成28年度 青谷地域振興会議  
委員提案管理表

開催日等	平成28年度 第7回青谷地域振興会議 平成29年1月19日
提案委員	津本 和美
提案内容	農業関係
具体的な内容	現在、青谷地域には380haの田があり、200haが稲作、180haが米以外（耕作放棄地を含む）を作っている。農地維持・保全のため、まず日置谷地区で取り組み、今後は青谷地域全体に広がればよいと思っている。担い手が耕作しやすい環境づくりが必要である。
意見	事務局：広域化すれば、計画的に活用できる有利な制度です。受益者が少ないため実施が困難な農道補修等も取り組みやすくなると思います。 意見：現在、河原集落では中山間直接支払制度を活用しているが、以前はこの多面的機能支払交付金制度を実施したが、高齢化等で引き継ぐ者がいない。この事業には取り組みにくい。 回答：山根地区に基盤整備実施の話が持ち上がっている。耕作放棄地にならないような対策をとれば実施は可能である。また、以前ほど事務処理の手間は少なくなっている。
以後の経過（随時）	
29/8/31会議での経過報告（産業建設課）： 多面的機能支払交付金事業（農地、農業用施設維持、保全）の日置谷地区での広域化は、4月より日置谷地区他7組織（既存組織4組織、新規組織3組織）の広域組織が発足し、活動を行っています。現在は広域化ではないですが、県営事業に取り組みされる「山根地区」「五本松地区」等に多面的事業や中山間直接支払事業の推進を行っているところです。	
31/2/15会議での経過報告（産業建設課）： 山根地区では、県営ほ場整備事業において平成30年度に実施設計、31年度以降に工事着手の予定です。また、30年度より中山間直接支払事業に取り組み開始しています。また同年9月には農事組合法人が設立され、ほ場整備後の新たな担い手としての役割が期待されています。 同じく県営事業に取り組み五本松地区でも、31年度より多面的事業に取り組み予定となっています。	

平成29年度 青谷地域振興会議  
委員提案管理表

開催日時等	平成29年度 第2回青谷地域振興会議 平成29年5月24日
提案委員	山本 剛
提案内容	「認知症を支える地域づくり事業を青谷町全域で ～認知症の人も そうでない人も みんなが安心して暮らせる〇〇に～」
具体的な内容	小地域において取り組みたい事例や取り組みを進めるための鳥取市の支援・施策について提案がありました。 1. 認知症への不安や偏見防止のための啓発活動・情報発信、及び、市民への到達度合の検証 2. 「がん検診」と同様、「認知症検診」の普及・制度化 3. 小地域における取り組みを進めるための事業実施計画の策定
事務局回答	鳥取市では、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指し、国が進める認知症施策に重点的に取り組んでいる。鳥取西地域包括支援センター職員が行う出前講座や、認知症キャラバン・メイトが行う「認知症サポーター養成講座」により、認知症を正しく理解していただくための啓発活動を推進している。認知症の人や介護されているご家族や専門職が気軽に参加できる場所づくりとして、「認知症カフェ」の開催を支援している。今後も、鳥取西地域包括支援センターとも協議しながら普及啓発に努める。
<b>以後の経過（随時）</b> 7月26日開催の地域振興会議で進め方についての同意を得る  <b>【方針】</b> 「認知症を支える地域づくり事業を青谷町全域で ～認知症の人も そうでない人も みんなが安心して暮らせる〇〇に～」 <b>【進め方】</b> 総合支所と担当課である鳥取西地域包括支援センターが連携して行う。 認知症について地域で取り組むには、行政だけでは出来るものではなく、地域振興会議の委員さんをはじめ、地域のみならずの協力も必要となる。今後、官民で力をあわせ、「認知症」を支える地域づくり事業を青谷町全体で推進する。	
<b>29/8/31会議で経過報告（市民福祉課）</b> ：9月上旬に、医療・福祉等関係者との話し合いを計画しており、今後の方向性について協議します。。また、青谷町版総合戦略へは「認知症高齢者等を支える地域づくり」の項目を追加し、今後は関係機関と協議しながら実践に努めます。	
<b>31/2/15会議での経過報告（市民福祉課）</b> ：平成29年度第5回地域振興会議（11月8日）鳥取西包括支援センター・市民福祉課より「認知症を支える地域づくりを青谷町全域で」（案）提案 第8回地域振興会議（2月16日）市民福祉課・保健師より「データで見る青谷町の健康福祉」について説明しました。 平成30年度第4回（10月10日）地域振興会議委員対象「認知症サポーター養成講座」実施 1.認知症への理解を深めるための啓発・実践 (1) 地区座談会において、啓発チラシを配布 (2) 認知症予防について、高齢者教室、ふれあい・いきいきサロンで健康教育を実施 (3) 市社会福祉協議会と協力し、青谷町における介護予防出前講座の問い合わせ窓口を明記したチラシを作成。地区団体へ配布 (4) 特別養護老人ホームなりすなが主催、青谷町健康づくり地区推進会后援にて、介護予防イベントを実施 2.認知症の早期発見・早期診断に繋げるための支援 青谷町健康づくり地区推進員会と協力して、認知症タッチパネル検査を活用した相談会の開催 3.鳥取西包括支援センターとも引き続き連携を強化	

# 委員提案制度の改善について



## ブレインストーミングとは:

自由奔放な発想からお互いのブレイン(頭脳)を刺激し合うことで、さらに創造的なアイデアを生み出すことが出来るという考え方が基本です。お互いの意見を批判して潰すのではなく小さなアイデアも含めて多くの意見を出し合うことにより内容を分析・整理し展開や解決へと結びつけるものです。